

## BNCコネクタ新嵌合確認

### BNCコネクタの接続状態



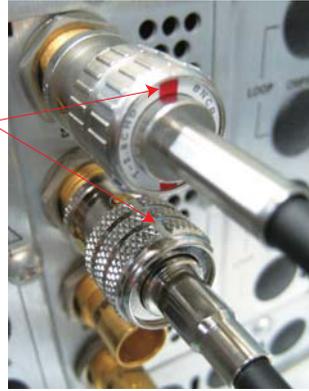
新識別方式を  
採用したBNCコネクタ  
(BNCP-Kシリーズ)



従来の当社製  
BNCコネクタ  
(BNCP-Tシリーズ)

斜め後方から見た  
場合、どちらのコ  
ネクタも嵌合位置  
(状態)の確認が  
できます。

### 斜め後方から見た場合



### 真後ろ方向から見た場合



<BNCP-Kシリーズ>  
真後ろ方向から見た  
場合でも容易に嵌合  
位置(状態)がハッ  
キリ確認が可能です。

<BNCP-Tシリーズ>  
従来のコネクタ側面  
での嵌合位置識別  
の場合、真後ろ方  
向から見た場合、殆  
ど嵌合位置(状態)の  
確認ができません。

放送局内では無数のケーブル、コネクタで機器間接続が行われていますが、これらのケーブルが確実に接続されて初めてシステムが正常に動作します。万が一コネクタの嵌合不良が発生すれば、放送事故につながってしまいます。

当社の同軸ケーブルTCXシリーズ専用を開発したKINGS社製BNCコネクタに更に**当社独自の識別シール**を貼り付けることで従来より更に確実に嵌合確認できるようにしました。

従来(BNCP-Tシリーズ)のコネクタ 側面の識別ラインではコネクタの斜め後方から嵌合確認はできましたが、真後ろ方向からの嵌合確認ができず、その機能が十分果たされない状況にありました。例えば高密度に結線されたラック内の殆どのコネクタは真後ろ方向からしか見えず、斜め後方からの嵌合確認は実質不可能な状況でした。

新BNCコネクタ(BNCP-Kシリーズ)は嵌合の**斜め後方と真後ろ方向のどちらから見ても画期的に嵌合確認しやすく**できています。更に識別マーク色はシリーズ毎に統一し、コネクタ品番だけでなく適合ケーブルも印刷した仕様になっており、実際のコネクタ加工で異なるサイズのコネクタの混同を極力さけ、適合ケーブルも直ぐに分かる様に配慮しました。識別シールの有無、マーク色の詳細に関しては19ページの一覧表をご覧ください。

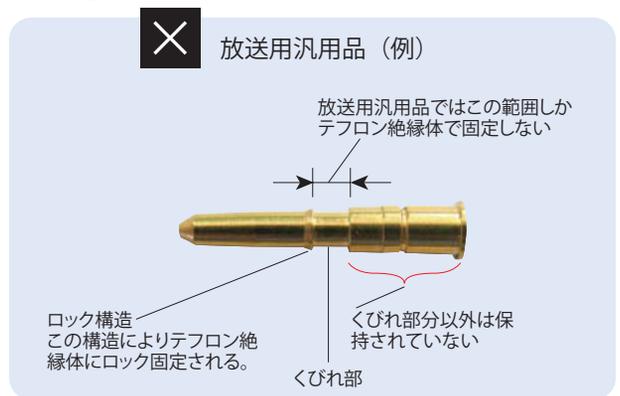
(注意) ロック位置の確認はあくまで目安ですので、コネクタ接続の最終嵌合確認は手または工具での作業で確実に行ってください。

## 圧着タイプBNCコネクタの信頼性向上

これまでHD-SDI伝送用としてVSWRの特性面、機械的構造面で優れたBNCコネクタ「BNCP-Tシリーズ」を当社同軸ケーブル「TCXシリーズ専用」として発売してきました。この特長を継承しながら、更に3G-SDI伝送に完全対応し、更なる高信頼性が得られるBNCコネクタ「BNCP-Kシリーズ」を米国KINGS社と共同開発しました。

基本性能としては**3GHz以下でVSWRが1.1以下**を実現しています(一部製品を除く)。もちろんVSWRによる低反射特性の実現だけでなく、中心コンタクトが微動だにせず確実に中心コンタクトを固定する**KINGS社独自の**新開発のテフロン絶縁体構造を新たに全面採用しました。実際に中心コンタクトの形状を比較すると、放送局内で使用されている汎用品と比較してテフロン絶縁体で中心コンタクトを固定する範囲が極めて広く確実に固定できることが分かります。更に「BNCP-Kシリーズ」では中心コンタクトの圧着部分(写真のコンタクトの右側部分)全体も完全にテフロン絶縁体で固定します。つまり全く動かない様にテフロン絶縁体で完全に中心コンタクトの先端部分以外を封じ込める構造になっています。結果としてコネクタ接続時のコンタクト接続が飛躍的に安定し、伝送障害を防止します。

### 中心コンタクト形状比較



また「BNCP-Tシリーズ」の中心コンタクトのロック構造において、中心コンタクトをコネクタ本体へ挿入した時、挿入が確実になされた時の「カチッ」とした感触(クリック感)がハッキリ分かったと好評でしたが、更にロックが確実にかかる様に改良を行い「BNCP-Kシリーズ」でも継承して採用しました。上記の円錐状に鋭角に張り出している部分の角度と大きさで挿入時の感触が大きく変わります。実際の挿入時に中心コンタクトがテフロン絶縁体を通してるときは抵抗感があり、円錐部分がテフロン絶縁体から出た瞬間に抵抗感がなくなりロックがかかる為に従来同様にはっきりとロックがなされた時のクリック感が分かる様になりました。